

芥川也寸志

● アレグロ・オスティナート

Allegro Ostinato

● 弦楽のための三楽章

Triptygue for String Orchestra

第1楽章 アレグロ
Allegro

第2楽章 アンダンテ
Andante

第3楽章 プレスト
Presto

● 交響管弦楽のための音楽

Musica pei Orchestra Sinfonica

第1楽章 アンダンティーノ
Andantino

第2楽章 アレグロ
Allegro

● 交響曲第一番

Primo Symphonica

第1楽章

第2楽章 アレグロ
Allegro

第3楽章 コラール / アダジオ
Chorale / Adagio

第4楽章 アレグロ・モルト
Allegro molto

指揮

芥川也寸志

管弦楽

新交響楽団

大和市民コンサート

芥川也寸志と 新交響楽団

主催:



大和青年会議所



ご あ い さ つ

大和青年会議所

理事長 薩田信次郎

本日は、芥川也寸志と新交響楽団による「大和市民コンサート」に多数御来場いただきまして、ありがとうございます。

私たち大和青年会議所（大和J C）は“明るい豊かな社会”の実現を同じ理想として、次代の担い手たる責任感をもった20歳から40歳までの、指導者たらんとする青年の団体です。

私たち大和J Cは本年で8年目を迎えましたが、設立以来「地域社会に根ざした心ある運動の展開」を基本テーマに、数々の事業を展開してまいりました。

大和市民祭りにおける、ミスやまとコンテスト、体協との共催のJ C杯争奪少年サッカー大会、社会福祉協議会後援の大和市民チャリティーゴルフ大会、教育委員会後援の教育映画上映会、少年少女の為のアスレチック広場づくり、そして数々の講演会等々の企画、開催を通じて、広く大和市及び大和市民の皆様と共に、地域社会の文化の高揚の一端を担うべく、歩んでまいりました。

そして本日は、大和市の御協力を賜り、大和市及び、大和青年会議所主催のコンサートを開催する運びとなりました。大和に初のフルオーケストラコンサートということで、この様な特設会場を設営しましたが、多少の不都合は何とぞ御容赦お願い申し上げます。

どうぞ、今後共私たち大和J Cの活動を、暖い目で見守っていただきたく、又、私たち大和J Cと一諸に活動できる方の御紹介を、重ねてお願い申し上げ、ご挨拶いたします。

本日は、秋の一日を、迫力あるオーケストラでごゆっくりお楽しみ下さい。

若きエース達!!

大和青年会議所では会員を募集しています。

【問い合わせ先】大和青年会議所：大和市大和南1-4-4 八千代信用金庫大和支店4 F

☎0462(63)2691 拡大理事：神 沢 まで。

大和青年会議所賛助会々員名簿

衆議院議員	甘利明	植木文具店	植木愛子
衆議院議員	戸沢政方	小野孝男法律事務所	小野孝男
元参議院議員	藤井裕久	日本生命大和営業部	高島英美子
神奈川県議会議員	加藤義治	細田産業(株)	細田勝久
大和市議会議員	小沢昭治	味上園	森本和雄
大和市議会議員	井上孝俊	大和自動車(株)	薩田重信
大和市議会議員	江田実	日本産業(株)ユコー	小武徹郎
大和市議会議員	安藤富夫	株式会社モミヤマ	榎山芳久
スカイパレス雅翔	山口順弘	小町建設(株)	田野口準一
富沢商事(株)	富沢篤紘	つきみ野幼稚園	佐藤幸光
大和RC前会長	薩田重信	(株)大和整備工場	大矢利美
(株)一本組	一本喬	(株)日本エムテック	小高正勝
(株)マルフジ巧芸社	加藤恒夫	(以上順不同)	



写真・木之下 晃

芥川也寸志経歴

1925年龍之介三男として生まれる。1943年東京高等師範付属中学校を経て、東京音楽学校予科作曲部に入学。和声を下総皖一、対位法を細川碧、作曲法を橋本国彦、ピアノを永井進に学ぶ。終戦後、東京音楽学校の講師として来任した伊福部昭の管弦楽法の講義を聞いて感動。以来、伊福部氏の影響を受ける。1949年東京音楽学校研究科修了。1950年「交響管弦楽のための音楽」に対し、NHK 創立25周年記念管弦楽曲懸賞特賞が贈られる。1953年「弦楽のための3楽章——トリプティック」がワルシヤワ音楽祭作曲賞を受賞。この年、團伊玖磨、黛敏郎と共に《3人の会》を結成、翌54年1月第1回音楽会を開く。1956年アマチュア・オーケストラ「新交響楽団」を創設。1967年「ヒロシマのオルフェ」が、ザルツブルグ・オペラ・コンクール第1位を獲得。他に、多数の映画音楽に対し、毎日映画賞、ブルー・リボン音楽賞、日本アカデミー賞が贈られている。現在、新交響楽団の音楽監督、常任指揮者としても活躍。日本作曲家協議会会長、日本音楽著作権協会(JASRAC)理事長。『私の音楽談義』『音楽の遊園地』等著書も多い。

新交響楽団経歴

新交響楽団(略称「新響」)は、1956年3月に創立されて以来30年にわたって団員により自主的に運営されている我国最大のアマチュア・オーケストラ。120名の団員の職業は、会社員55%、教職員15%、自営業・医師・公務員・学生各々5%、主婦10%と多岐にわたっている。創立以来、音楽監督・芥川也寸志の指導のもと、自主演奏会のほか、国内・国外の演奏旅行など幅広い活動を行なってきた。演奏曲目も、1966年の創立10周年にはベートーヴェンの交響曲の全曲演奏、1970年にはストラヴィンスキーの3部作の一举上演など、少しずつ増やしてきている。1976年創立20周年記念演奏会〈日本の交響作品展〉(昭和8年~18年)を行なう。以来この日本作品シリーズは毎年1回ずつ継続されている。また、1979年の第86回演奏会以来、名誉指揮者山田一雄の指導により、G. マーラーの交響曲に取り組み、これまでに7回マーラーの演奏会を行なっている。新響は年4回の自主演奏会のほか、公共団体、学校などの依頼演奏会も行なっている。自主演奏会には公共機関や民間団体からの継続的な財政援助は一切なく、団員自身の負担と聴衆の中から組織された維持会制度によって運営されている。そうした手作りの音楽演奏を通じて新響はアマチュア・オーケストラとしての可能性を最大限に追及している。

芥川也寸志

● アレグロ・オスティナート

Allegro Ostinato

● 弦楽のための三楽章

Triptygue for String Orchestra

第1楽章 アレグロ
Allegro

第2楽章 アンダンテ
Andante

第3楽章 プレスト
Presto

● 交響管弦楽のための音楽

Musica pei Orchestra Sinfonica

第1楽章 アンダンティーノ
Andantino

第2楽章 アレグロ
Allegro

● 交響曲第一番

Primo Symphonica

第1楽章

第2楽章 アレグロ
Allegro

第3楽章 コラール / アダジオ
Chorale / Adagio

第4楽章 アレグロ・モルト
Allegro molto

指揮

芥川也寸志

管弦楽

新交響楽団

アレグロ・オスティナート

作曲年代 1986年 楽器編成 2 管
初 演 1986年4月17日 2 Fl. (2 Picc.), 2 Ob., Cor Ing., 2
作曲者指揮 Cl., Bass Cl., 2 Fag., Contra Fg., 4
東京都交響楽団 Hr., 3 Tp., 3 Tb., Tuba, Timp., 小太
随易保険ホール 鼓
演奏時間 4 分

私は1925年7月に、東京に生まれました。今の北区ですが、戦前は滝野川区と呼ばれておりました。私の生まれた家は、山の手線の田端駅から山手に登った所にあつて、左右のお隣が日本画家と鍔金家という、芸術家の多い閑静な住宅地でした。

私はその家でずっと育ち、終戦の2年前に、今の芸大、当時の東京音楽学校に入りました。終戦時は陸軍音楽隊にいましたが、私が生まれ育った家は、空襲で焼けてしまいました。それから、私はずっと東京に住んでおります。

また、芥川家の先祖は徳川に仕えておりましたので、多分、私は生粋の江戸っ子といえると思います。その上、東京から離れて住んだことがありませんので、私の心や身体には都会というものが染みついてしまっていると思います。

この曲は、とくに東京の何かを描写しようとしたものではありません。私のふるさとであり、これからも離れることはないであろう、わが愛する東京、そして私の心に染みついている都会というもののイメージをごく自然に画きながら、いわば“讃歌”として、また組曲の最終曲として作られたものです。
(芥川也寸志・初演時のプログラムより)

絃楽のための三楽章 — トリプティーク

作曲年代 1953年 楽器編成 弦楽合奏 (弦5部)
初 演 1953年12月
クルト・ヴェス指揮
ニューヨーク・フィル
カーネギー・ホール
演奏時間 14分

《絃楽のための三楽章》(トリプティーク)は、1953年にオーストリーの指揮者クルト・ヴェスの依頼により書かれたもので、《トリプティーク》とは三連画の意味である。初演は同年12月カーネギー・リサイタル・ホールでヴェス指揮ニューヨーク・フィルハーモニーの演奏により行われた。その2年後にはモスクワ労働組合会館で、ニコライ・アノーソフ指揮、全ソ放送交響楽団により演奏され、楽譜は1956年 State Music Publishers : Moscow から出版された。

その後ヨーロッパではベルリン、ウィーンその他の主要都市で数多く演奏されている。

この作品は彼が弦楽オーケストラ曲に対してもなみなみならぬ力量の持ち主であることを示している。元来ヴァイオリン属は旋律楽器である為に、管楽器や打楽器を交えないで近代性を打ち出すことは困難とされていたが、作曲者は《絃楽のための三楽章》の中で、彼独自の語法を使いながらも、その難業を見事に克服している。どの楽章においても対位法の巧妙さは特筆に値するものである。

旋律が最も美しく歌われる第2楽章「子守歌」の中にはノック・ザ・ボディの日本的なリズムが心憎いばかりの効果をあげている。

第3楽章のモチーフには、日本の祭り太鼓のリズムが使われている。第1楽章の箇切れのよい小刻みのリズムも甚だ爽快な気分をもたらす。

芥川の音楽には滓が残らない。その小ざっぱりした味わいは、江戸時代から東京人に伝えられた芸術的気質なのである。

(富樫 康)



写真・木之下 晃

交響管絃樂のための音楽

作曲年代 1950年 楽器編成 3管
 初演 1950年3月21日 Picc., 2 Fl., 2 Ob., Cor Ing., 2 Cl.,
 近衛秀磨指揮 Bass Cl., 2 Fag., Contra Fg., 4 Hr.,
 日本交響楽団 3 Tp., 3 Tb., Tuba, Timp., 大太鼓,
 日比谷公会堂 小太鼓, シンバル, グロッケンシュ
 演奏時間 12分 ビール, 木魚, ギロ, マラカス

芥川也寸志が幼時から、レコードを通じてストラヴィンスキーの《ペトルーシュカ》や《火の鳥》に親しんでいたということは、彼の芸術を語る上に、有力な糸口となる。

いったい日本の作曲家には、作風が目まぐるしく変わる人が多いが、芥川の作風は多少の変化はあっても、初めから一貫したのがあり、それが彼の大きな特色となっている。

それはどういうものかという、音楽を作るにあたって、あいまいな感じのものをいっさい拒否するという態度である。このことは必然的に、ロマン的な、夢幻性、耽美性をさけることとなる。つまり、彼にとっては、複雑な対位法の網目によって生れる幽玄な趣きや、印象主義的な色彩の混合によってかもし出される、そこはかとい微妙な響きは異質なものである。したがって、現代音楽の一方を代表する12音の技法も、たとえそれが非情の色を帯びていようとも、それが持つ宿命的な、一種のロマン性のゆえに拒否している。

彼の作品の底に流れるものは、微細な塵の混入すら許さぬ精密機械の冷たさと、直截な原始性のもつ非情さであり、また、時として、原始の肉感にあこがれる都会人の透明な感傷である。

こういった彼の作風の形成にとって先にのべたストラヴィンスキーの影響から始まって、プロコフィエフの影響は大きかった。しかし、何よりも彼に大きな影響をおよぼしたのは、彼が傾倒してやまなかった恩師伊福部昭の影響である。この、土俗ふうと、モダニズムとの合体の上に独自の音楽を作り上げた北海道出身の作曲家に、芥川は、自分の血の中に流れているリズムと同じ脈動のうっているのを発見したからにちがいない。

芥川は、伊福部昭の影響から離れて、その後新たな作風をしいに形成してゆくのであるが、この《交響管絃樂のための音楽》は、芥川の出世作であると同時に、伊福部昭から得たものがどれほど芥川自身の血肉となっているかをもっともきたんなく示した作品ということができようであろう。

この作品は、1950年、NHK放送25周年記念管絃楽懸賞に、団伊玖磨の《イ調の交響曲》とともに特賞入選したもので、その後、近衛秀磨、尾高尚忠、クルト・ウェスらの指揮者、ならびに作曲者自身の手によってしばしば演奏され、おそらく、日本人の作った管絃楽曲の中では最も演奏回数の多いもののひとつではなからうか。海外でも、ハンブルク、パリ等でも演奏された。完成の日付は、自筆スコアによると1950年2月20日となっている。

この曲は2つの楽章よりなっている。

第1楽章 アンダンティーノ 4分の4拍子。

まず、チェロと、ファゴット、および、小太鼓が、単調なリズムを刻みはじめる。調性はホ短調。そして、オーボエとクラリネットが次の主題を吹く。



それに答えて、トランペットのシンコペーションのリズムを持った副主題が出る。



ホルンと弦による第3の主題もあらわれる。



ふたたび、第1主題が今度は、フルートとピッコロにあらわれるが、次には、ホルンの3度の音にのって、弦の次の新しい主題が出る。



これらがくりかえされるが、やがてテンポが落ちて中間部に入る。

中間部は、次の土俗的な味をもつ主題によっている。楽器はイングリッシュ・ホルンで表情豊かに奏される。



この主題の背景をなすものは、ホ音のオルゲル・ブントを奏するコントラバスと、チューバ、および、弱音器をつけたヴィオラだけで、簡素な中に、日本的な哀愁を出している。

この主題は、しだいにリズムの細かい対主題によって装飾される。

再現部は、ほぼ形どおりだが、少し短くなっている。

第2楽章 アレグロ。

前の楽章から切れ目なしに入る。全体に強烈なリズムで貫かれている。

まず、シンバルの強打の一撃をうけて、主要主題が、トランペットとトロンボーンで精力的に奏される。



主題提示が終ると、ティンパニが強烈なリズムを刻みだす。これに乗って、全管絃楽が、きわめて精力的に主題を奏する。

調は、ト長調から半音ずれて変ト長調となり、木管が次のおどけた主題を奏する。



調はイ長調になり、この主題が今度は弦で示される。これがくりかえされ、次に最初の主題が、今度は弦で示される。ティンパニは終始、ト音とニ音を打ちつづける。

ふたたび、全管絃楽で主題がくりかえされるが、次に変ニ長調に転じて、次の表情的な主題が弦で示される。



この展開が少しあって、おどけた第2主題が帰ってくる。次に第1主題がトロンボーンのソロで奏され、つづいて、第2ヴァイオリンとヴィオラというふうにつぎつぎと受けわたされ、最後に、全管絃楽でクライマックスを作る。ここで注目すべきことは、4分の2拍子の主題に対し、打楽器その他が、8分の3拍子のアクセントを刻んで、ポリリズムの効果を出していることである。この部分の効果は、全曲中の圧巻である。

コーダは、第2、第3主題によって作られ、ホ長調のトニカの強烈な一撃で曲を結ぶ。

(井上太郎・最新名曲解説全集・音楽之友社より)

交響曲第一番

作曲年代	1955年	楽器編成	3 管
初 演	1955年12月8日	Picc., 2 Fl., 2 Ob., Cor Ing., 2 Cl.,	
	上田国仁指揮	Bass Cl., 2 Fag., Contra Fg., 4	
	東京交響楽団	Hr., 3 Trp., 3 Tbn., Tuba, Hp., Tim., 大	
	日比谷公会堂	太鼓, 小太鼓, シンバル, タムタム, 木	
演奏時間	28分	琴	

芥川也寸志の音楽語法について

——交響曲第一番を中心にして——

毛利蔵人

芥川さんと私は25歳の年齢差がある。ほぼ一世代の違いといへよう。私たちの世代の作曲家、つまり戦後生まれの作曲家たちは、外国の作曲家から多くを学ぶと同時に、いや、もしかしたらそれ以上に我国の先輩の作曲家に負ふ所が多いのではないと思ふ。少くとも私自身はさうだ。私事に触れることをお赦し願ひたいが、音楽の専門教育を全く受けたことのない私にとって、同じ時代に生きる日本の作曲家の作品を聴くことが何よりも刺激となり、滋養となった。芥川さんの音楽は、その様にして私が身近に感じた幾人かの日本の作曲家のひとりの作品として私の前に表はれた。後輩の作曲家が先輩の作品をどの様に聴くかを語ることは、結局は私的な想ひを述べることでしかないが、そのことによって、芥川さんの音楽を愛聴する人がより一層ふえることにつながるかも知れないと考へ、新響からの御依頼を受け、拙稿を綴る次第となった。

芥川さんの音楽は明快で解り易い。これは驚くべきことだ。一般に「現代音楽」は難解だと思はれてゐる。これには幾らでも反論できるのだが、ここはそれをする場ではないので省略するが、多くの人が私たちの音楽をむづかしいと、実際に思つてゐる中で、芥川さんの音楽をむづかしいと感じる人はまづゐないだらう。ただ、この点が最も重要なことなのだが、むづかしい音楽を書くのは、ある意味では容易だが、解り易い音楽を書くのはむづかしいことであつて、並の能力の人にはできないのではないのだ。

芥川さんの音楽の特徴を具体的に挙げてみよう。

一、旋律が明瞭で美しい。

一、リズムがはっきりしてゐる。特にテンポの速い曲では、オスティナートに乗ったシンコペーションが著しい。

一、和声構造が明確である。

一、楽曲構成の起承転結がはっきりしてゐる。

一、それぞれの楽器の機能が十分に発揮できる様に書かれてゐる。

まだ他にもあるかも知れないが、これらが個々に独立して存在するのではなく、有機的関連性を保ちつつ音楽が構成されてゐることは改めていふまでもないだらう。

次にこれらについて今日の最後に演奏される大曲、交響曲第一番から実例を挙げて見て行かう。

第1楽章の冒頭、四六の短三和音のクロマティック下降と、ひとつの共通音をもつ短三和音の下降に支えられて、クラリネットのソロに始る旋律が上行する。ここでの短三和音は機能利和声としては働いてゐないので、基本位置が転回型のいづれかは、さ程重要ではない。しかし、平行進行であることと、クロマティック下降であること、及び上声部と下声部が反進行することが、この壮大なシンフォニーを支へてゐる最も重

要な柱のひとつであることは次第に意識されてくるだらう。

(譜例①)

やがて同じ旋律がオクターヴ上で第1ヴァイオリンによって歌はれるとき、副次的な対旋律が加はり、冒頭と同じ和声進行の中で、低音の縮小型による、より重要な対旋律が聞こえる(譜例②)。そして、それらの絡み合ひのうちに、*ff*でA音に達するとリズム動機が表はれ、(譜例③)、そこまでが、その動機を導くための長いアナクルーズであつたことに気づくと同時に、A音への指向性を強く感じる。そのリズム動機は、短三和音の響きの中で声部をふやしつくりかへされ、やがて低音のA、Eのドミナント進行に支へられた短三和音の平行に*ff*のテュッティで到達し、はっきりとした姿を見せる(譜例④)。このモチーフは後の楽章でもしばしば聞かれる。さらに、このリズム動機から導かれた絃楽合奏のシンコペーションに乗って、木管楽器に新しい旋律が表はれる。その旋律はオクターヴ上行が特徴で、付点リズムと三連音も新たに加わる。内声部にはクロマティック上行が聞こえる(譜例⑤)。順次声部をふやしつづつテュッティで*ff*に達した後に冒頭の旋律が長二度上で、やはりクラリネットによって弱く奏された後に、コントラバスをのぞく絃楽合奏で、また新しい旋律が表はれる(譜例⑥)。しかしこの旋律は、よく聴くと冒頭のそれと良く似てをり、他の様々なモチーフと組み合わせられて展開して行く。

第2楽章は軽快なスケルツォだ。芥川さんはテンポの速い音楽を得意とする数少ない作曲家のひとりだ。絃楽器によって提示されたモチーフ(譜例⑦)を木管楽器が受け、絃がさらにひきついで金管群に渡す、といふ様に主として各楽器群間の音色の運動性の面白さを聞くことができる。せまい音域内の限られた音の組み合わせを、リズム、フレーズ、アーティキュレーションの変化によって様々に変容させる手法は、つとに芥川流といへよう(譜例⑧)。しかも、この例の場合に顕著である様に、伴奏音型はひたすら同じパターンをくりかへすので、少しづつ変化する主声部との対照が、より一層はっきりとする。やがて譜例⑨のリズムが絃のユニゾンに始まり、木管、金管と少しづつ加はつてテュッティに至るが、このときオーケストラの各楽器は最も良く鳴る音域で自然に最強音に達することができる様に周到な配慮が施されてゐる。譜例⑩に、テュッティに至つた際の各楽器の配置を示さう。

第3楽章はコラール。ここでは長短両三和音の組み合わせと、上声、下声の反行が著しい(譜例⑪)。絃の弱音に始るコラールは、次第に他の楽器も加はつて、重層的にぬり重ねながら*ff*へ向ふ。次に、うすくオーケストレーションされた対位法的部分が、コラールと対照的に置かれ(譜例⑫)、第1楽章のリズム動機が復帰する(譜例⑬)。その後はコラールの再現である。

終楽章はアレグロ・モルト。最初のテーマは、例によって楽しいリズムの遊びが、規則正しい刻みに乗つてくりひろげられる(譜例⑭)。ここでも短三和音が圧倒的に優位を占めるが、長三和音に乗った副次的モチーフによるブリッジが、その後にくすぐ短三和音のクロマティック下降との鮮やかなコントラストを見せる(譜例⑮)。やがて木管と絃の増三和音が響き渡る中で、ホルンとトロンボーンが楽句が朗々と鳴る(譜例⑯)。増三和音の出現は初めてなので、極めて新

鮮に聞こえる。さらに第1楽章のモチーフに基く金管の強奏を経て、バスのD音の持続上に例のリズム動機がまた聞こえてくる。(譜例⑭)

以上、交響曲第1番について特徴を幾つか述べたが、この大曲で集大成されたともいへる書法は、今日演奏されるそれ以前のふたつの作品、「交響管絃楽のための音楽」と、「絃楽のための三章」に於てもすでに試みられてをり、さらに今年、1986年の作品である「アレグロ・オスティナート」に至るまでも一貫してゐる。

最後に、昨年の6月にガンのため、46歳で逝った作曲家八村義夫が芥川さんについて書き残した文章の一節を引用して拙稿を終へることとしたい。

……実に異常なリアリティと切れ味の鋭い才能を持っている人だ。(中略) 才能というものはおそらく外的には最も目立たない個所においてつかわれ、その堆積が最大限の効力を発揮するようにしておくのが、才能の、いわば基本的な使い方なのだ……

[八村義夫著「ラ・フォリア」草思社刊より]
(作曲家)

譜例①



譜例②



譜例③



譜例④



譜例⑤



譜例⑥



譜例⑦



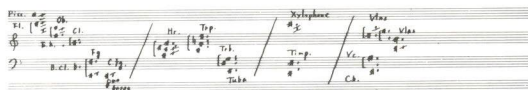
譜例⑧



譜例⑨



譜例⑩



譜例⑪



譜例⑫



譜例⑬



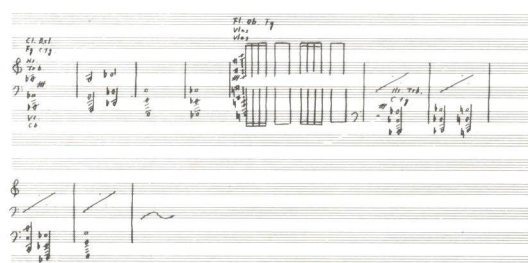
譜例⑭



譜例⑮

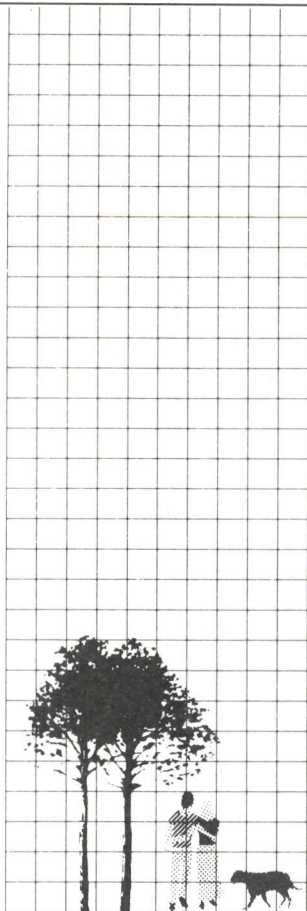


譜例⑯



譜例⑰





SPACE CREATIVE

都市の美と人間生活

株式会社
マルフジ巧芸社

YAMATO YOKOHAMA
TEL.(0462)61-2548(代) TEL.(045)441-4489(代)

祝

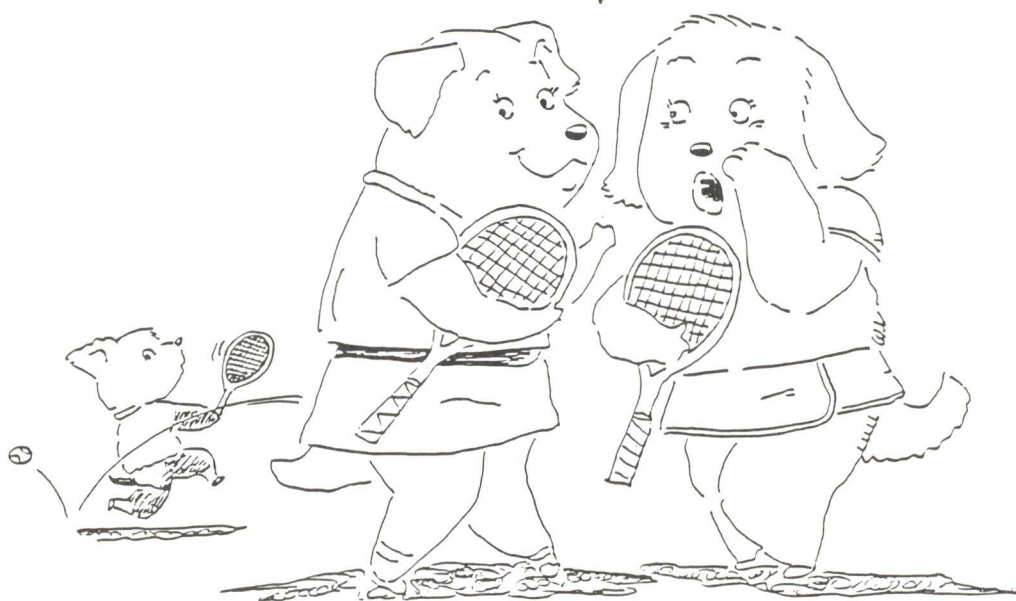
J.C オーケストラ演奏会

とみざわビル株式会社

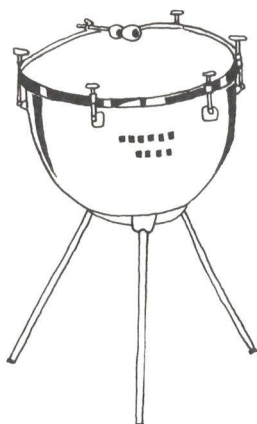
代表取締役 富沢 あつひろ

TEL (61) 0372

富沢サンもステキだけど
オーケストラもいいわネ!



①祝 大和市民コンサート



江田商事株式会社

江 田 実

大和市大和東 1-6-9

TEL 63-2231

一日の始まりは
明るい朝日から!!



朝日新聞の
お申し込みは

朝日新聞
中央林間専売所
TEL 75-0218



朝日新聞
南林間専売所
TEL 74-2417



朝日新聞
鶴間専売所
TEL 63-0135

朝
日
新
聞

大支
和部

最寄の販売店へ!!

朝日新聞
大和専売所
TEL 61-0997



朝日新聞
桜ヶ丘専売所
TEL 67-2317



朝日新聞
高座渋谷専売所
TEL 69-8503

お菓子のアトリエ

てづくりけーき・こーひー

欧風菓子

.....
洋菓子教室
.....

ウドウ とぅかのみ

南林間本店 大和市南林間1-6-4 ☎0462-74-5891

一般木材・新建材・住宅機器販売

有限会社 藤村材木店

大和市上草柳 7-7-7

TEL 0462-61-1760 (代)

FAX 0462-64-6689

新発売!

変額保険は明治生命へ。

創業以来105年の長きにわたって培った当社の運用ノウハウは、いまや“財務の明治生命”として、内外から高く評価されています。「ダイナミック保険」においても、明治生命の資産運用力にご注目ください。

明治のダイナミック保険 シリーズ

ライフ パイオニア ナイズONE アーチ アーチ

●保険の事なら

明治生命大和北(営) 山崎宮子

☎0462(74)6068

保険のNEW WAVE

EXCEL LENT



エクセレント——ニッセイ変額保険

時代のニーズが新しい保険を誕生させました。

日本生命林間支部 ☎0462(74)2301

ハンコのことならなんでもお気軽に相談下さい。

- 実印 ●ゴム印 ●表札 ●
- 名刺 ●ハガキ ●

飯 田 印 章 店

大和市大和東1-6-6 イトーヨーカドー前
TEL 0462(61)4438

美しい地球の
自然を守りたい。



みなさん 今日もありがとう

有限
会社 **フジ工業**
TEL 61-2240

住まい選び、新時代。

みなさんの信頼に応える

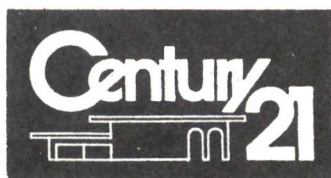


あなたとホットコミュニケーション

住宅を建てる人、売る人、住む人の立場になって住まいを提供する人—真心で結ぶセンチュリー21・飛鳥建設は、首都圏をネットして、消費者に満足と信頼の輪を広げている。アメリカで生れ、総合商社「伊藤忠」が育ての親のセンチュリー21は、毛並が違ふ。豊かさの中に潤い、そして「人間らしい暮らし」の消費者指向を存分に反映させたアドベ

ンチャー的な使命を担っている。建てる売れば…昔ながらの不動産カタギは、居住する人の満足を犠牲にさせてしまうから。マイホームの夢を実現させて後悔させる原因は最低限、取りのぞくこと。ベンチャーズの宿命なのだ。満足を売るためには「豊かな情報」と「物件」が必要。限られる企業能力のなかで、その作業は困難。といった意

味で、同じ企業意識を持って結集したセンチュリー21のネットワークは信頼の絆。ここで交換する資料・情報は、例え物件に欠点があっても、事前に十分な説明をして承知ねがう。行き届いた営業サービスは、いわば「満足」に結びつく。すべてが条件ぞろいという住まいは、もう皆無に等しい。住宅条件、資金の中でより創造と工夫をこらし、住条件を向上させて奉仕する。これがセンチュリー21のポリシー。フランチャイズの飛鳥建設も、その筋を通した営業姿勢を社是として、あらゆるニーズに対応している。百聞は一見です。



■ センチュリー21 加盟店 ■
センチュリー21 飛鳥建設

大和市柳橋2-15-3 ☎0462(69)8181(代)
飛鳥建設株式会社 神奈川県知事免許(3)第10740号

忘年会 好評受付中

御予約はお早目に

¥5,800より

※お部屋料金は税・サービス料を含んで
おります。

※ご宿泊・ご宴会・会議のご予約を承っております。

タイプ	1名様	2名様
シングル A	¥ 7,500	
シングル B (ソファアーベット可)	¥ 8,000	
ツイン	¥ 10,000	¥ 12,000
ダブル	¥ 11,000	¥ 12,000
デラックスツイン (ソファアーベット可)	¥ 14,000	¥ 16,000
会議室料金	34名収容 半日¥25000 1日50000	

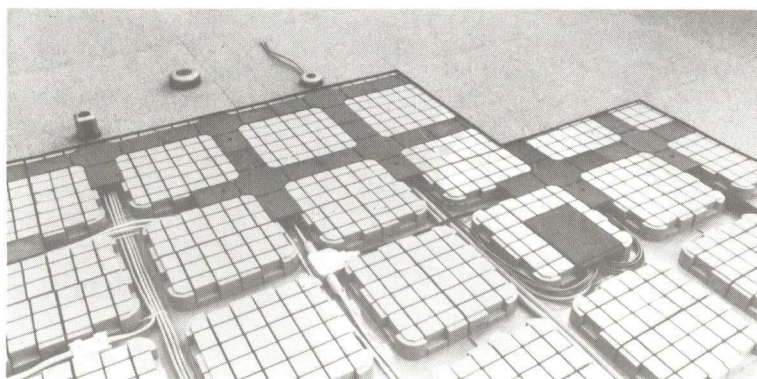


大和グランドホテル

〒242 大和市中央2-5-2 (大和西口駅前)

☎0462-62-1112

インテリジェントビル対応の 新しい床配線システム “ネットワークフロア”



新時代の配電システムメーカー

共同電気株式会社

渋谷区東3-24-12

TEL 03(409)2331 (代)

美しく、充実した
夢ある人生を求める
女性に応援します。



住友生命

座間支所

座間市緑ヶ丘6089-53
TEL 0462(53)3233 (菅野)

時計・メガネ・宝石

フジモト

有限会社 藤本時計店

〒242
大和市大和東3-1-20(新橋通り)
TEL 0462(61)0668(代)



TOYOTA*

HONDA*

mazda

MMC
三菱自動車

関東運輸局指定整備工場
各種自動車・販売・修理・車検・钣金・塗装

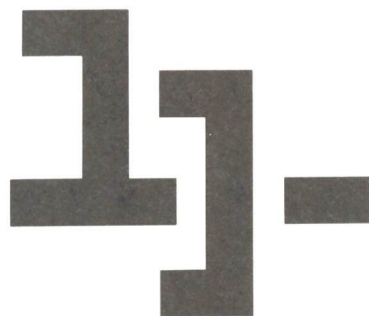
大和自動車株式会社

PHONE (0462)61-6155(代表)

FAX (0462)61-6159



**FRESH and
CLEAN** as a morning rain...



DRYCLEANING

本社 ・南林間六条通角
☎(0462)76-1313

第5プラント ・南林間駅前
☎(0462)74-6940

大和中央店 ・中央通住銀前
☎(0462)63-5777

大和店 ・大和ショップ内
☎(0462)61-6524

支店：東京・川崎・厚木

“遊びと情操のバランス教育”



学校法人 かつみ学園

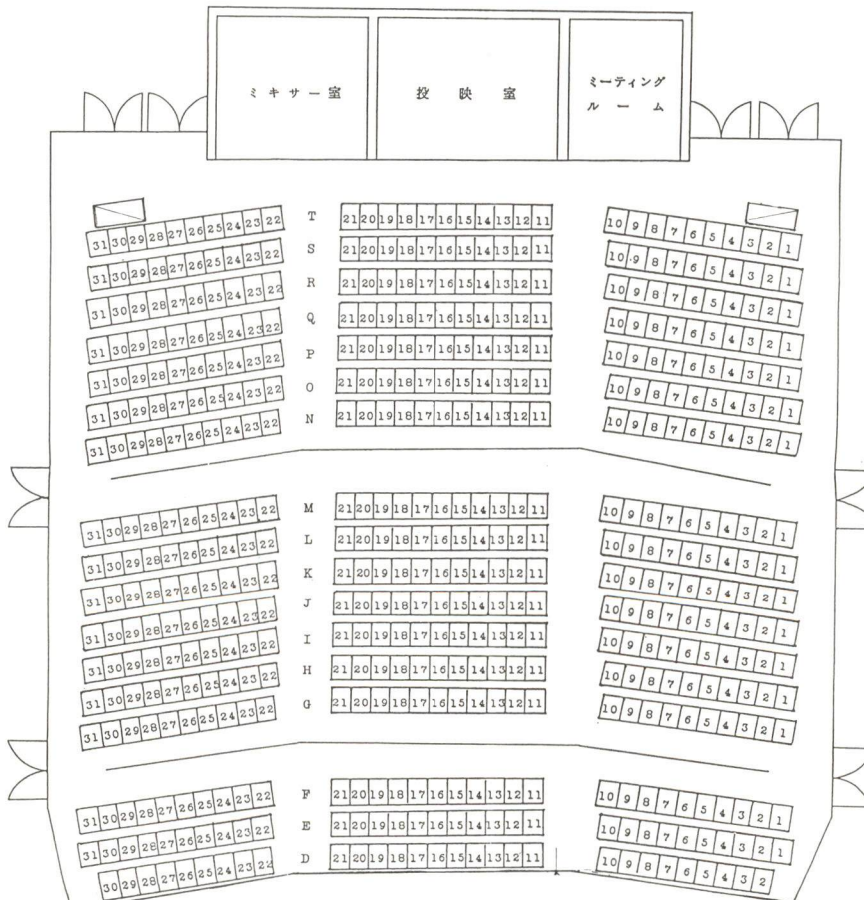


大和山王幼稚園

園長 小倉克己

〒242 大和市下鶴間2919 TEL 0462(74)0474

大和市中心文化会館座席表



ステージ

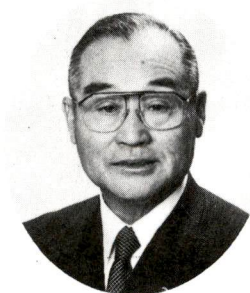
大和市民コンサート

芥川也寸志と 新交響楽団

主催:

大和市

大和青年会議所



ご あ い さ つ

大和市長 遠 藤 嘉 一

日ごろの市政に対するご協力を心からお礼申し上げます。

本日、大和市と大和青年会議所との共催により大和市民コンサートを開催した訳ではありますが、このような規模でのオーケストラは、大和では初めてであります。

市内におけるコーラスやコンサートの活動は年々活発化しておりますことは、本市の音楽文化の将来にとって誠に喜ばしいことであります。

本市においても文化行政事業の一環として、文化活動の活性化と芸術活動の振興を図るために開催したものでありますが、120名によるオーケストラの素晴らしい音楽は聴く者に深い感動をあたえることと思います。

この市民コンサートを通じて、さらに地域の音楽文化向上につながることを期待し、ごあいさついたします。